



松本すみ子

シニアライフアドバイザー、アリア代表取締役。シニア時代のライフスタイル提案、市場コンサル、講演、執筆などで活躍。著書に「地域デビュー指南術」など。

死後に遺族で、業者に丸投げ、本人の生前整理。どれがベストか

ど んなに元氣な親も、いつか必ず亡くなります。実家の片付けは、親の存命中から少しずつ始めることをお勧めします。いきなり親の物からではなく、まずは実家に残している自分の物から整理し始めましょう。昔のアルバムや表彰状などを親と懐かしみ、徐々に親の物に移るのが理想です。

親がいままで普通にできていたことができなくなり、「あれ？」と感じることが出てきたら、そのときにスタートのタイミングです。帰る回数を増やし、親とコミュニケーションを取りながら片付け始めてほしいです。

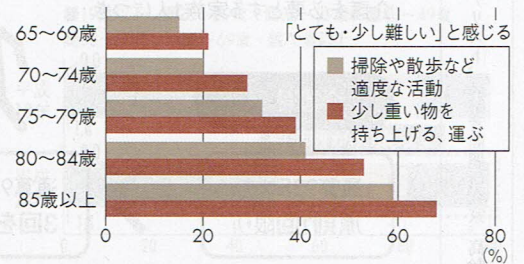
はいえ、亡くなるまで何の準備も、片付けもしてない、というのはよくある話。親世代は物持ちがいたため、古い衣服から小物までなんでも残しがち。まずは他人には任せられないものを処分しましょう。宝飾品や着物、思い出の品物などは、親族での形見分けをお勧めします。故人を偲びながら、家具などは業者に頼むほかあ

誰が何を片付けるかなど、面倒な話は採め事に発展します。どうにもならないときは司法書士や弁護士など、専門家に入ってもらいの手です。尾を引く厄介事にならないようにしたいものです。

↓親の存命中に着手。他人に判断不可の物から処分する

き取り料がかかる場合が多いと思いますが、自分たちで処理するには手間がかかりすぎます。さようはいは他人の始まり。誰が何を片付けるかなど、面倒な話は採め事に発展します。どうにもならないときは司法書士や弁護士など、専門家に入ってもらいの手です。尾を引く厄介事にならないようにしたいものです。

年を取るほど片付けられなくなる



出典：内閣府「平成26年度 高齢者の日常生活に関する意識調査」

衣谷 康=構成



おちとよこ

医療福祉ジャーナリスト、高齢者問題研究家。高齢者介護、医療、福祉などに関するテーマを中心に活躍。入院介護 SOS「年金世代の介護とろすお悩み相談」など著書多数。

要介護認定、有利な判定を得て公的保険をフル活用するには

公 的介護保険を利用するには、まず最寄りの地域包括支援センターで申請手続きを必要があります。これはどの程度のサポートが必要かを表す「介護度」を決めるためですが、この介護度によって、利用できるサービスや保険適用の上限金額が決まるので、結果はとても重要です。

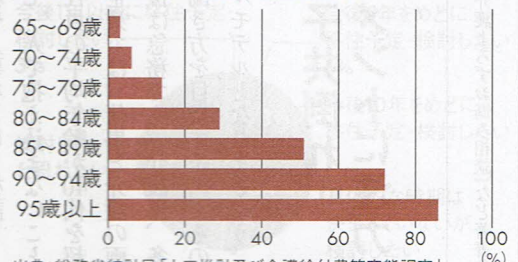
この結果を大きく左右するのが、1時間足らずの訪問調査。認知症があると、普段の状態が、調査に正しく反映されにくいので、短時間で正しく状態を伝えるには、調査に家族もできるだけ立ち会い、日頃の状態を補足するのがコツ。ただし本人のプライドを傷つけないように、例えば、調査員を見送るときにそつと、「本人はあ言っていないが、普段の状態は……」と、あらかじめ用意したメモを渡す。その際、介護度は支援の手間で決まるので、かかる時間を具体的に伝えるのがポイントです。「トイレを汚すので、家族が毎回20分くらい掃除」「就寝後も

1時間ごとに見守りが必要」といった具合に。同居していない場合は、調査前に室内の散らかり具合や冷蔵庫内などを観察し、異変があれば伝えましょう。

↓最初の「訪問調査」が重要。普段の状態を補足して伝える

ま た一人暮らしでは、無理にでも自分で身の回りのことをせざるをえないため、認定は低く出がちです。結果が予想より軽く出たときは、「区分変更申請」ができるので、窓口で相談しましょう。

75歳から急増！ 要介護認定率



出典：総務省統計局「人口推計及び介護給付費等実態調査」(平成27年10月審査分)